

参考値

福島第一 2号機原子炉建屋上部における空气中放射性物質の核種分析結果

(データ集約：10/14)

採取場所	2号機原子炉建屋上部 (ブローアウトパネル中央西向)		2号機原子炉建屋上部 (ブローアウトパネル中央北向)		2号機原子炉建屋上部 (ブローアウトパネル下部)		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成23年10月13日 10時00分～12時00分		平成23年10月13日 10時00分～12時00分		平成23年10月13日 10時00分～12時00分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 ( / )	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	1.2E-04	0.06	6.9E-05	0.03	3.4E-05	0.02	2E-03
Cs-137 (約30年)	1.7E-04	0.06	9.3E-05	0.03	2.6E-05	0.01	3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

. E- とは、. × 10<sup>-</sup> と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

代表3核種の検出限界値は次のとおり。

揮発性のI-131が約4E-6Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約8E-6Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状のI-131が約2E-6Bq/cm<sup>3</sup>。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。